

安全データシート

1. 製品名及び会社情報

製品名 サルボコール78
 会社名 西日本薬業株式会社
 住所 愛媛県松山市南吉田町2186番地1
 電話番号 089-965-3600
 FAX番号 089-965-3601
 メールアドレス info-labo@nisiyaku.co.jp
 推奨用途及び
 使用上の制限 食品工場、調理施設等全般の除菌洗浄及び食品の鮮度保持
 作成年月日 2015年2月20日
 改定日 2016年6月1日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体 区分2
 健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A-2B
 生殖細胞変異原性 区分1B
 生殖毒性 区分1A
 特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) 区分3(気道性刺激、麻酔性)
 特定標的臓器/全身毒性(反復暴露) 区分1(肝臓)、区分2(神経)
 環境に対する有害性 該当せず
 絵表示又はシンボル



危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気で、蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。
 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアとは徐々に、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等の酸化剤とは激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
 蒸気を吸入すると眼、気道の刺激を引き起こすことがあり、繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛、疲労感などを起こすことがある。
 妊娠中に継続して摂取すると、胎児に有害影響が及ぶことがある。長期にわたる摂取は肝硬変を引き起こすことがある。

3. 物質の組成、成分情報

物質の特定 混合物
組成

含有成分	化学式	化審法番号	安衛法番号	CASNo.	重量比
エチルアルコール	CH ₃ CH ₂ OH	2-202	既存	64-17-5	74.02%
乳酸 ナトリウム	CH ₃ CH(OH)COONa	2-1376	既存	867-56-1	0.26%
乳酸	C ₃ H ₆ O ₃	2-1369	既存	50-21-5	0.01%

上記組成に精製水を含有

国連分類：3-2（引火性液体） 国連番号：1170

4. 応急措置

- 吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にする。必要であれば医師の手当を受ける。
- 眼に入った場合：豊富な清浄水で最低15分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合：アルコールの浸潤した衣服を直ちに脱がせ、アルコールにふれた部分を水で流しながら洗浄する。石鹼を使ってよく落とす。
- 飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈し、可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤：大量の水、粉末、炭酸ガス、耐アルコール泡などの消火剤が有効
- 消火方法：初期の火災には、大量の水噴霧、又は粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。大規模の火災には耐アルコール泡、大量の水を噴霧する。容器を冷却する。又延焼を防止するため、周辺にも水を噴霧する。空気遮断にて消火を行うこと。
- 火災時の特有危険有害性：刺激性又は有害なガスが発生する。少量の水での消火は火災を拡大させる。
- 消火を行う者の保護：防災耐熱性保護具、マスク等消火作業に適した保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

- 注意事項：回収及び清掃作業員は高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、保護マスク等適当な保護具を着用する。
浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
- 除去方法：少量の場合は砂又は他の不燃性吸着剤で取り除きこぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。
大量の場合は漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった場所は、大量の水で洗い流す。
漏出液はウエス、雑巾などに吸着させて空容器に回収すること。

7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い :みだりに火気その他点火源となる恐れのあるものに接近させ若しくは注ぎ、蒸発させ、又は加熱しないこと。
取扱い及び保管施設の電気設備は全て防爆構造とし、アルコール流動その他によって静電気を発生させる恐れのある場所にはこれを有効に除去する装置を設けること。
取り扱う設備のある場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの又は酸化性のものを置かない。
- 保管 :保管は消防法上の貯蔵設備で行い、通風をよくし蒸気が滞留しないようにする。また、指定数量未満のものについても、火気その他危険な場所から遠ざけ通風をよくし温度、湿度、遮光に注意し、冷暗所に保管する。
消防法の第1類及び第6類の危険物との混合貯蔵は禁止。また、非危険物との混合貯蔵については、原則禁止であるが、例外として危険物以外の可燃性固体類又は可燃性液体類とを貯蔵する場合は、それぞれをとりまとめて貯蔵し、かつ相互に1 m以上の間隔を置く場合には貯蔵することができる。
-

8.ばく露防止および保護措置

- 設備対策 :照明設備は防爆型のものを使用する。取扱いについては、火気のない換気のよいところで行う。
- 管理温度 :規定なし
- 許容濃度 : A C G I H(1996) TWA 1,000ppm(1,880mg/m³)
- 保護具 :通常はゴム手袋、ゴム前掛、安全靴を着用する。高濃度の場所ではゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、防毒マスクを着用する。
- 作業衣 :帯電防止衣服を着用する。
-

9.物理的及び化学的性質(アルコール分 100%として)

- 外観等 :無色透明な液体で特有の芳香とやけるような味を持つ。
- pH :該当せず
- 融点 : -114.15℃
- 沸点 : 78.32℃(101.325kPa)
- 引火点 : 13℃(密閉)
- 発火点 : 439℃
- 蒸気圧 : 5,878kPa(20℃)
- 爆発限界 : 下限 3.3vol%～上限 19.0vol%(空气中)
- 蒸気密度 : 1.59
- 比重 : 0.7947kg/m(15℃)
- 溶媒に対する溶解性 : 水、エーテルによく溶ける
- オクタノール/水分配係数 : -0.30(logPo/w)
-

10.安定性及び反応性(アルコール分 100%として)

- 安定性 : 通常の手扱い条件においては安定。
- 反応性 : 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウム等の強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件：火気その他発火源への接触、衝撃、高温を避けること。

11.有害性情報(アルコール分 100%として)

- 急性毒性 ・経口 ヒト：LDL0 1400mg/kg 行動、胃腸（吐気）
 ・経口 ラット：LD50 7060mg/kg 呼吸器系
- 刺激性 ・皮膚 ラット：400mg 開放 症状(軽度)
 ・皮膚 ラット：500mg/24h 症状(重度)
 ・目 ラット：100mg/24h 症状(中度)
- 癌原性 ・経口 マウス：TDL0 320mg/kg/50週 毒性未評価
- 生殖毒性 ・吸入 ラット：TCL0 20,000ppm/7h 妊娠、1～22日 発育異常
 ・経口 ラット：TDL0 44g/kg 妊娠、7～17日 発育異常
- 生殖細胞変異原性 : データなし
- 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露、反復暴露）：データなし

12.環境影響情報(アルコール分 100%として)

- 分解性 ・理論酸素要求量：2.10mg/L
 ・BOD5 0.93～1.67mg/L
 ・COD 1.99～2.11mg/L
 ・バクテリア硝化能の抑制 4,100mg/L でニトロソモナス種のアンモニア酸化の50%抑制
- 生体毒性 ・マスの幼魚：LC50 11.2g/L・24h
 ・コイの一種：LC50 18～13.4g/L・96h

13.廃棄上の注意

- ・ 残余廃棄物については燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。
- ・ 使用後の容器又は配管等を廃棄処分する時は、内容物を水洗してから処分する。
- ・ 取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項による。

14.輸送上の注意

- ・ 取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法により第1類及び第6類との混載を禁止。
 - ・ 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめて、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 - ・ その他、適用法令の定めるところに従う。
- 国連番号 1170 ・ 国連危険物分類 3(引火性液体) ・ 国連包装等級 II
- 消防法 第4類 引火性液体 三 アルコール類
- 航空法 規則第194条 三 引火性液体
- 港則法 危険物規則第12条 危険物告示別表5 引火性液体類
- 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律 施行令別表一の二 十二 有害でない物質

15.適用法令

- ・ 食品衛生法 食品および食品添加物
- ・ 消防法 危険物第4類アルコール類
- ・ 労働安全衛生法 施行令 別表第一危険物4（引火性の物）

	57条の2第1項(通知対象物)
・港則法	規則第12条危険物告知表2ホ引火性液体類
・危険物船舶運送及び貯蔵規則	第2条第1号ハ(1)引火性液体類(引火点61℃以下)
・航空法	引火性液体(引火点60.5℃以下)
・PRTR法	第1種及び第2種指定化学物質 非該当

16.その他の情報

【参考文献】

- 社団法人アルコール協会他編：アルコールハンドブック第9版(1997)
- 社団法人日本化学会編：化学便覧(改訂4版)、丸善(1993)
- 化学工業日報社：13700の化学商品
- 化学工業日報社：国際化学物質安全カード(ICSC)日本語版(2000)
- 海外技術資料研究所：危険物・毒物取扱マニュアル
- 独立行政法人：既存化学物質安全性点検データ(2002)
- 消防庁危険物規制課：危険物の解説

【注意】

- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の実施を前提としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性がある得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようようお願い申し上げます。